

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ 「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ	6
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト-「小さな自然再生」現地研修会（全3回）の開催予告

今年度の「小さな自然再生」現地研修会（主催：「小さな自然再生」研究会及び JRRN）の開催地を皆様より公募し、応募者と企画について調整させて頂いた結果、全3回の開催予定（開催日時・開催場所）がほぼ定まりました。

現在、各研修会のプログラムについて最終調整を行っており

ますので、詳細が決定した研修会より、JRRN ウェブサイトや facebook 等を通じてご案内させていただきます。なお、本年も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、人数制限や地元関係者を中心とした開催となる場合がありますが、オンデマンド配信等の新たな工夫をしながら開催してまいります。

第12回「小さな自然再生」現地研修会 ～自然観察から都市河川でできることを考える～

◆日時： 2021年11月14日（日）

◆場所： 東京都中野区・善福寺川 ※調整中

環境意識や防災意識の向上、さらには郷土愛醸成やシビックプライドの向上を図ることを目的に、中野区の子供達に川で遊び学ぶ機会を提供し、今後新たに地域でできることについて考えます。



第13回「小さな自然再生」現地研修会 ～河口部湿地環境の保全と再生を考える～

◆日時： 2021年11月21日（日）

◆場所： 滋賀県守山市・大川 ※調整中

大川河口部の湿地環境として価値を評価し、環境教育や地域の賑わい創出の場として、魚や水生昆虫などが増え、生物の多様性を高めるためにできることを考えます。



第14回「小さな自然再生」現地研修会 ～釧路川支川の魚類生息環境を再生する～

◆日時： 2021年11月28日（日）

◆場所： 北海道釧路市・釧路川流域 ※調整中

釧路湿原自然再生事業として実施されている、手づくり魚道や産卵環境づくりなどの小さな自然再生の実践現場から、魚類の遡上・生息環境の再生技術や手づくり施工のノウハウを学びます。



(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

RIVERFRONT 最新号特集「水辺の小さな自然再生～自治体と協働する～」発行案内

公益財団法人リバーフロント研究所の機関誌「RIVER FRONT」の最新号(第93号) <特集「水辺の小さな自然再生～自治体と協働する～」>が発行されました。

RIVER FRONTでの「水辺の小さな自然再生」の特集は、2015年3月(vol.80)より約6年ぶりとなります。今回の特集では、前回特集以降の6年間で川づくりを取り巻く状況の変化(水防災意識社会、グリーンインフラ、流域治水 etc.)や、小さな自然再生の実践を通じて新たに蓄積してきた知見(技術、仕組、効果 etc.)を踏まえ、持続的な流域管理や自治体との協働の視点から、この分野を牽引されてきた専門家の方々、また県・市などで実践されている自治体職員の方々よりご寄稿頂きました。

本特集が、多くの読者、中でも全国の中小河川を管理されている自治体職員の方々へと届き、全国の河川や水辺での小さな自然再生の新たな展開への後押しとなることを願っております。

最新号のPDF版は以下よりダウンロードすることができますので、皆様是非ともご覧頂ければ幸いです。

■ダウンロードはこちらから

http://www.rfc.or.jp/pdf/vol_93/mokuji.html



< RIVER FRONT Vol.93 目次 >

巻頭言

「小さな自然再生」を大きく育てたい／代表理事 塚原 浩一

特集 水辺の小さな自然再生～自治体と協働する～

- 持続的な流域管理における「水辺の小さな自然再生」の重要性 [東京大学 名誉教授 玉井 信行]
- 河川技術と小さな自然再生 [株式会社北海道技術コンサルタント 岩瀬 晴夫]
- 多自然川づくりと小さな自然再生 [岐阜大学流域圏科学研究センター 原田 守啓]
- 流域治水と小さな自然再生 [技術参与/滋賀県立大学 環境科学部 准教授 瀧 健太郎]
- 都市河川における「小さな自然再生」の取組 [愛知県建設局河川課 西山 幸佐]
- 小さな自然再生を活用した多自然川づくり研修の取り組みについて [秋田県建設部河川砂防課 砂防・防災班 主査 芳賀 豊明]
- 浚渫をきっかけに、子どもが生き生きと遊び学べる川を育む「ふるさとの川づくり」 [豊田市矢作川研究所 吉橋 久美子・山本 大輔]
- 創成川での小さな自然再生～都心における生き物の生息環境の創出～ [札幌市下水道河川局事業推進部河川事業課 工藤 裕子]
- 水辺の小さな自然再生を全国へ～「小さな自然再生」研究会より～ [水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 和田 彰]

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介 [NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 大井 里美]

万葉の川心

万葉の川心 (第89回) [元横浜市立子安小学校 教諭 澤井 園子]

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

川づくり国際交流活動 – 韓国ソウル市主催「Water Seoul 2021」が開催されました



2021年10月8日(金)～9日(土)に、韓国・ソウル市主催「Water Seoul 2021 ～Cities for Climate Resilience」国際シンポジウムがオンライン開催され、海外都市の事例紹介として、東京と大阪より水防災対策と水辺の賑わい創出に関わる事例発表が行われました。

本行事は、「水循環」「水の安全(防災)」「水文化(まちづくり)」の三つをサブテーマに、ソウル市の水を基軸とした都市づくりに向けた諸外国の事例を共有する目的で開催され、ソウル市主催事務局の要請を受け、日本からの事例紹介に関わる講師推挙をJRRN事務局が担いました。

東京及び大阪からの発表が行われた二つのセッションの概要を簡単に紹介させていただきます。

※Water Seoul 2021 公式ウェブサイト(英語)はこちら
<https://forum.seoul.go.kr/water/en>

【セッション2：気候変動適応能力を高めるための都市の水管理 (Water Safty)】

ソウル市では、気候変動に伴う水害リスク増加への適応策として、既存の洪水防御施設の機能強化や予警報システムの改善に取り組むとともに、洪水調節機能を有する地下トンネル建設を進めています。本セッションでは、東京及びシカゴより「地下調節池(トンネル)」に関わる事例発表が行われ、これからのソウル市における水防災対策について討論されました。



東京からは、JRRN 代表理事の土屋信行(公益財団法人リバーフロント研究所 審議役)より、環状七号線地下調節池の話題を中心に、これまでの取組や、気候変動を踏まえた今後の取組について事例紹介を行いました。

【セッション3：都市の競争力と市民の幸福度を高める水辺再生 (Water Culture)】



本セッションでは、水辺の賑わい創出をテーマに、大阪及びハンブルクから事例が紹介され、大阪からは、橋爪伸也・大阪府立大学教授より水都大阪を主テーマに、大阪の水辺の歴史の変遷、水都大阪プロジェクトの始まりから現在までの取組、また今後の展開についてご発表頂きました。

なお、本行事の動画(言語：英語)がソウル市の公式Youtubeチャンネルに公開されておりますので、ご興味のある方はご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=iBG3yVjf_Ds

講師選定に際し多大なご協力頂きました東京都建設局河川部及び水都大阪コンソーシアムの関係者に御礼申し上げます。また、JRRNでは、引き続き、日本の川づくりの経験を海外に伝え、そして海外から学ぶ橋渡し役を担ってまいります。

(JRRN 事務局・和田彰)

10月



あの日のあの川 リレー日記 ～第58話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第58話主人公 池田望

(筑波大学 理工学群 工学システム学類 環境開発工学主専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：群馬県蛇川)

「清流とのふれあい」

いつのこと？：小学生

どこの川？：群馬県南牧川

皆さんこんにちは。早川さんよりバトンを受け取りました、筑波大学白川研究室の池田望です。幼少期に体験した川での記憶について、拙い記憶ではありますが、何とか掘り起こして書き綴ってみたいと思います。少しの間お付き合いください。

小学3年生の夏休みのこと、私は家族とともに、群馬県の南牧村という場所へ2泊3日のキャンプをしに行きました。南牧村周辺は、人が暮らしている集落も存在するものの、山奥に行くにつれゴースタウンと化したところが多く見られるような所でした。目的地であるキャンプ場はその山奥にあったため、そんな景色の中を延々と進んでいくのですが、道を進むにつれて人の気配が無くなっていくその非日常の感覚に、まだ幼い自分はかなり恐怖を感じたことを覚えています。

細い山道を進み続け、不安を抱えつつも到着したキャンプ場には、太い木組みに布の張られた大きなテントがいくつかと、ドラム缶風呂、簡素な火起こし場などがありました。そしてそれらの横を、水の透き通った綺麗な南牧川が流れていました。自分の生まれ育った場所では絶対に見られない光景に思わず目を奪われ、しばらくの間立ち尽くしていましたが、小学生の好奇心とは恐ろしいもので、抱いていた不安などよそに、川を探検してみたいという感情が沸々と込み上げてきました。荷物を降ろし水遊びのできる格好に着替えると、すぐに川へ飛び込み、その景色や音、温度などを全身で楽しみました。そうして川の虜となった私は、結果としてそこからの3日間、日が出ている時間の大半を川の中で過ごすことになります。

南牧川の中で、それほどの長い時間何をして遊んでいたかについては、はっきりと思い出すことができません。ただ、お世辞にも自然が多いとは言えないような場所で暮らしてきた私にとって、見渡す限りを自然に囲まれたような環境で何日も過ごすというその経験自体が、非常に新鮮で魅力的なものであったことは間違いないでしょう。実際に自然の中に身を置くことで初めて得られる、普段とは異なった様々な感覚に興味を持ち、子供なりに楽しんでいたのではないかと思います。具体的にどう遊んでいたかを思い出すことは難しくとも、日中ずっと、それこそ水の冷たさによって唇の色が変わるほど川に浸かっていたあの時は、とにかくとても充実したものであったと記憶しています。

そうして、電気も水道もなく、不便ではあるものの楽しかった3日間は、あっという間に終わりを迎えました。しかし、南牧川に魅了された私は、翌年の夏休みにもそのキャンプへ連れて行ってもらい、同じように川で遊ぶということを繰り返しました。ある年の台風によってテント等の設備が流されてしまい、土砂災害等のためにその場所を訪れることが出来なくなってしまうまでの間、毎年遊びに行っていました。

災害後その場所を訪れなくなってから、長い月日が経ってしまいましたが、私が大学4年生になった時のこと、偶然にもその場所の近くを通る用事ができました。かつて遊んだ場所自体には訪れることができないものの、ずっと入っていたあの川の姿を、少し離れた場所からでも良いからもう一度見てみようと思い、立ち寄ってみることにしました。川の景色は、小学生のあの頃から変わっておらず、美しいままでした。この時私は、この自然の景色がいつまでもずっと残っていてほしいと思いました。

かつて美しかった川が、今もその姿のままで在り続けているような場所は、世界にどれほどあるでしょうか。そして、今なお美しさを保っている川は、将来どれほど残っているのでしょうか。誰かの思い出に残っているようなその姿を守るために、私たちに何ができるのかを考えて生きていくことは、とても大切なことではないかと思います。私自身も、そんなことを考えつつ生活を続けていきたいと思っています。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

(次は宇佐美将平さんにバトンを託します)

「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ *Nature-oriented River Management Support Center*

※『多自然川づくりサポートセンター』は、多自然川づくりについての技術的な支援、市民との連携の強化、気軽な相談窓口、情報の共有等を担い、(公財)リバーフロント研究所が事務局を務めています。2019年度より、JRRNは多自然川づくりサポートセンターと連携して川づくりの推進に取り組んでおります。

**「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～」
第2回目のウェブセミナーを開催しました！ 次回は10月21日(木)開催予定です！**

多自然川づくりサポートセンター事務局

■第2回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第2回 大河川における多自然川づくりセミナー」を令和3年9月2日(木)に開催しました。

第1回目は、「Q6-1 人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください」に関連して、川と人・地域の関わりを豊にする水辺整備について、株式会社吉村伸一流域計画室 吉村伸一代表取締役から、ご講演頂きました。

参加者は行政関係者や建設コンサルタント関係者など、約250名の方々にご参加いただきました。参加者の皆様有難うございました。

<第2回 ウェブセミナー開催概要>

- 開催日時：令和3年9月2日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェブセミナー
(事前申込制、参加費無料)
- プログラム：
 - ① 「川と人・地域の関わりをもっと豊かに
－大河川の自然と広い空間を活かした魅力的な水辺整備を考える」
講演者：株式会社吉村伸一流域計画室
代表取締役 吉村 伸一
 - ② 意見交換
- CPD：1.0単位(土木学会認定)

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

●次回開催予定

今回は、「Q8-1 河道内樹林が再繁茂しにくい施工や維持管理の方法を教えてください」に関連して、河道内樹種の特長や再繁茂対策の手法について、国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センターの森照貴主任研究員から、ご講演頂く予定です。是非ご参加ください。
(次ページの案内チラシ参照)

- 開催日時：令和3年10月21日(木)
16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェブセミナー
(事前申込制、参加費無料)

★参加申込はこちらから

<https://forms.gle/StcjZXX2TXQhwfsd7>



●過去の講演動画

過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/resources/guideline/276.html>

「河道内樹林の再繁茂対策について」

2021.10/21 (木)

時間 16:00~17:00
形式 Zoomウェビナー

国立研究開発法人 土木研究所
自然共生研究センター

主任研究員 森 照貴

●プログラム

	題目	講演者
16:00~	河道内樹林の再繁茂対策について	森 照貴
16:30~	意見交換	

今回のセミナーでは「Q8-1 河道内樹林が再繁茂しにくい施工や維持管理の方法を教えてください」に関連して、河道内樹種の特性や再繁茂対策の手法について考えます。



●大河川における多自然川づくりセミナーにおける目的

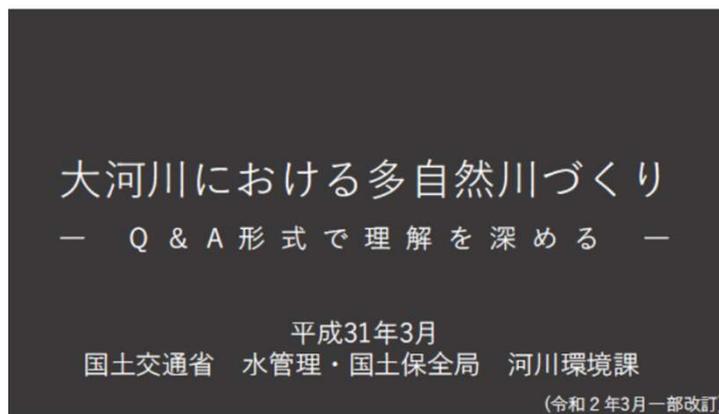
本セミナーは、「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～」を基に、複数回に渡り、河道掘削や樹木管理における多自然川づくりのポイントをQ&A執筆者より解説した上で、セミナー参加者の皆様と意見交換を通じて、大河川における多自然川づくりへの理解を深めることを目的としています。

●大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～とは？

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題をQuestionとし、これにAnswerとして答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本Q&Aのダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyotashizen/qa.html



お申し込み方法

下記URLまたはQRコードより、お申し込みください。

<https://forms.gle/StcjZXX2TXQhwfsd7>



主催 公益財団法人リバーフロント研究所（多自然川づくりサポートセンター）

お問合せ：daikasen2021@rfc.or.jp 担当：吉田・金子

会議・イベント案内 (2021年10月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁まででご案内した行事は本欄では掲載していません。

■ 2021 環境教育セミナー『SDGsに向けた日本型グローバルティーチャーの養成：グローバルプログラム 25 年間の成果と未来』

- 日時：2021年10月13日(水) 15:00～16:30
 - 主催：東京学芸大学環境教育研究センター(グローバル日本事務局)、東京学芸大学 Explayground「グローバルジオラボ」「武蔵野らぼ」
 - 場所：オンライン形式 (Zoom)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3257.html>

■ 第19回 河川財団研究発表会

- 日時：2021年10月20日(水) 13:00～17:30
 - 主催：公益財団法人河川財団
 - 場所：一橋大学 一橋講堂、オンライン同時開催
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3243.html>

■ 河川生態学術研究会 25周年シンポジウム

- 日時：2021年10月28日(木) 13:30～16:40
 - 主催：河川生態学術研究会、(公財)リバーフロント研究所
 - 場所：オンライン形式 (Zoom ウェビナー)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3247.html>

■ 第23回 河川生態学術研究発表会

- 日時：2021年10月29日(金) 10:00～17:30
 - 主催：河川生態学術研究会、(公財)リバーフロント研究所
 - 場所：オンライン形式 (Zoom ウェビナー)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3249.html>

■ 応用生態工学会名古屋 web セミナー「多自然川づくりのこれまでと、これからへの期待」

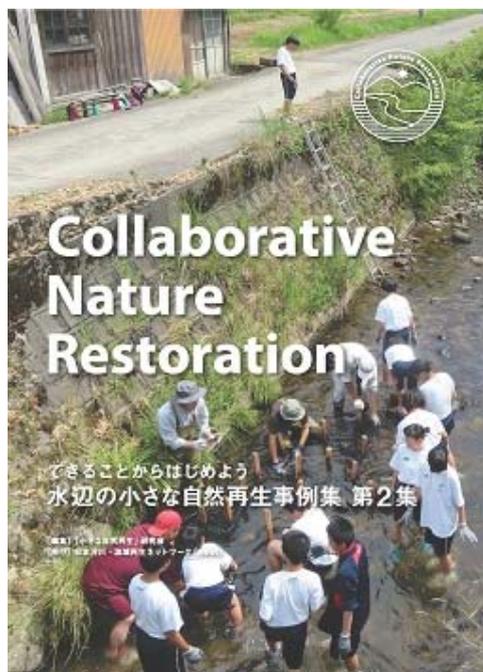
- 日時：2021年11月17日(水) 13:30～16:30
 - 主催：応用生態工学会名古屋
 - 場所：オンライン形式 (Zoom ウェビナー)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3252.html>

■ 応用生態工学会金沢 WEB 研修会「水辺のグリーンリカバリーを考える」

- 日時：2021年11月17日(水) 13:30～16:30
 - 主催：応用生態工学会金沢
 - 場所：オンライン形式 (zoom)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3254.html>

冊子等の紹介 *Publications*

❖ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編（第2集）の印刷製本版を普及中です。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成：吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン：本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 発行年月：2020年3月

❖ 送付申込受付中 → <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

本事例集の印刷製本版の送付をご希望の方は、送料(250円)のみご負担頂いた上で、2冊を上限に無料でご提供致します。詳細は上記URLをご覧ください。

❖ 上記冊子の入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

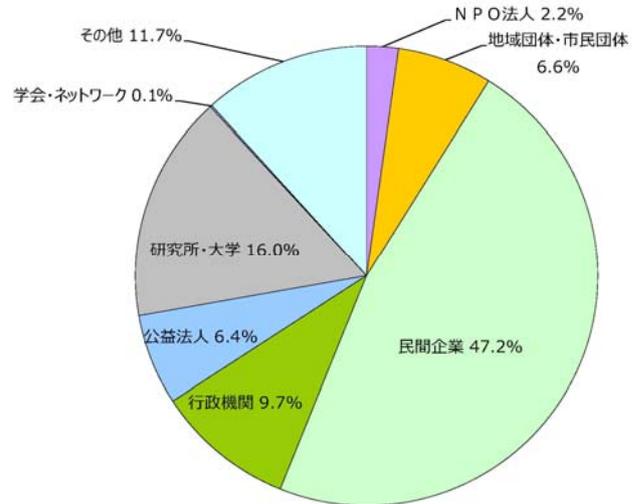
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2021年9月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：823名、団体会員数：62団体)
※9月の新規入会数：個人会員1, 団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

